

# 「火の用心だより」第107号(令和6年2月)

発行：札幌市消防局予防部予防課

## 火が無くても火災に!?

「火災が起こる原因は?」と聞かれると、「こんろの火」「ろうそくの火」など、目に見える「火」を思い浮かべるかと思いますが、目に見えない「熱」が火災の原因になることもあります。

### 事例 <ダウンライト付近のダンボール>

照明器具であるダウンライトに接触した状態でダンボールが置かれていたため、ダウンライトの白熱電球の熱が蓄積されて出火。



<ダンボールで塞がれていたダウンライト>



<ダウンライトを塞いでいたダンボール>



照明器具による火災実験映像はコチラ



### <どうしたら防げる?>

- ・熱が発生する機器等の近くには、燃えやすいモノを置かない!
  - ・日頃から整理整頓を行う!
- 以上2点を徹底しましょう!

# スプレー缶の取扱いに要注意！



スプレー缶の多くは可燃性ガスが含まれており、使用や保管の方法を誤ると大きな事故へと発展してしまいます。

札幌市で起こった事例をいくつかご紹介しますので、参考にして気を付けましょう。

## 事例1 <調理中にガス抜き>

- ・調理中に、コンロ付近でスプレー缶のガス抜きを行った。  
放出されたガスにコンロの火が引火し、火災となってしまった。



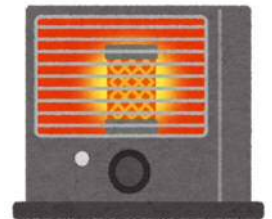
## 事例2 <ガス抜き後のスプレー缶処理>

- ・金属製のハンマーでスプレー缶の穴あけ作業を室内で行った。  
ハンマーでたたいた際に発生した火花が可燃性ガスに引火し、火災となってしまった。



## 事例3 <暖房器具の熱で破裂>

- ・暖房器具の近くに置いてあったスプレー缶が、輻射熱 (※) によって暖められたことで膨張して破裂。放出された可燃性ガスに引火して火災となってしまった。



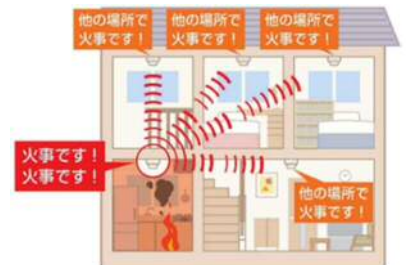
※輻射熱・・・暖房器具から発せられる赤外線を介して伝わる熱

# 住宅用火災警報器点検してる？

住宅用火災警報器は、火災により発生する煙や熱を感知し、音や音声で警報を発して火災の発生を知らせてくれる機器です。

札幌市では設置から **10年**を目安に交換を推奨していますが、交換をする際は「**連動型住宅用火災警報器**」がおすすめです。

連動型は、別の部屋で火災を感知した場合でも**家中すべての警報器が鳴る**ので、家の中にいる全員が同時に火災を知ることができ、早期に避難を開始できます。



【連動型住警器の仕組み】

### 市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境を作りましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行:札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO

